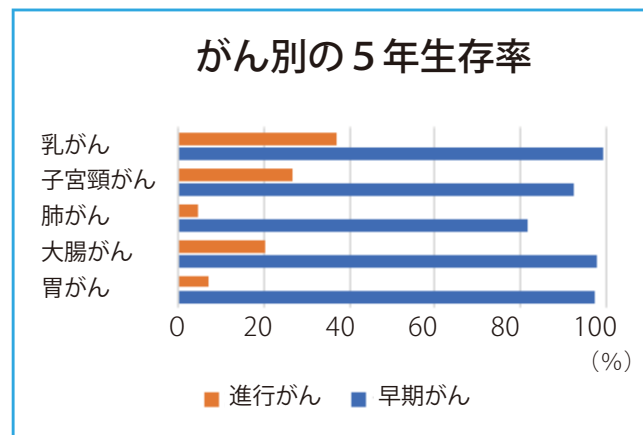


がん検診を受けましょう！～早期発見があなたの命を守ります～

- 日本人の約2人に1人が生涯のうちに「がん」にかかり、約3人に1人が「がん」で亡くなっています。
- しかし、がん検診などにより早期発見し、早期治療した場合、多くのがんの5年生存率は9割を超えています。
- あなたの大切な命を守るために定期的ながん検診を受けましょう。

国立がんセンター 2006-2008 年診断例の5年相対生存率データによる



がん検診の目的

がん検診の目的は、がんを見つけることだけではありません。がんによる死亡率を低下させることが重要です。

科学的根拠に基づくがん検診

死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診として、胃・肺・大腸・子宮頸・乳がんの5つのがん検診が国の指針で示され、推奨されています。有効性に加えて、検診のメリット・デメリットのバランスを検討して、対象となる年齢や受診間隔が定められています。

●国が推奨しているがん検診の種類と内容

(※1) いずれも「問診」を含む (※2) 喫煙指数600以上の者

項目	胃がん検診 (下記いずれか)		肺がん検診		大腸がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診
方法(※1)	胃部エックス線	胃部内視鏡	胸部エックス線	かく痰細胞診	便潜血検査	視診・頸部細胞診・内診	マンモグラフィ
対象	40歳以上	50歳以上	40歳以上	50歳以上の喫煙者(※2)	40歳以上	20歳以上	40歳以上
受診間隔	1年に1回	2年に1回	1年に1回	1年に1回	1年に1回	2年に1回	2年に1回

すべてのがん検診にはメリットとデメリットがあります。がん検診について正しく理解しておくことが大切です。

検診のメリット	⇔	検診のデメリット
がんによる死亡のリスクが減少します。 前がん病変を治療することで、がんになることを防げます。		がんでなくても「がんの疑い」(疑陽性)と判定されることもあります。 がんであっても「疑いなし」(偽陰性)と判定されることもあります。 死亡につながらないがんを発見し、不必要な治療を受けなければならないこともあります。(過剰診断)